

開催にあたって

埼玉県立文書館では、昭和44年（1969）の開館以来、「郷土についての歴史的価値のある文書及び記録並びに県の公文書その他の必要な資料」の収集・整理・保存を図るとともに、これらを広く県民の皆様に閲覧公開し、あわせて毎年収蔵文書展を開催しております。平成6年度からは、当館の収蔵文書を地域別に紹介するシリーズ展示として、これまで「北足立地方の文書Ⅰ・Ⅱ」、「比企地方の文書」、「入間地方の文書」、「秩父・児玉地方の文書」をそれぞれ開催してまいりましたが、今回は、県北部に位置する大里地方に視点を置き、「大里地方の文書 友山と武香 ー青山根岸家文書の世界ー」と題し、大里郡大里村青山に所在する根岸家に遺された文書を中心に紹介いたします。

根岸家は、大里郡青山村名主であるとともに豪農として近世中期以降飛躍的な発展を遂げました。また、幕末期の当主根岸友山は、尊攘派の志士として新徴組に参画し、多彩な交流があったほか、その子武香は県会議員や貴族院議員を勤める傍ら考古学や歴史学にも貢献し、吉見百穴の保存や「新編武蔵風土記稿」を出版した人物としても知られています。

今回の展示では、6,000点を超す膨大な根岸家文書の中から、幕末～明治の動乱期を駆け抜けた根岸友山・武香父子の多彩な活動を中心にその足跡を辿ってみたいと思います。本展示を通して、大里地方に残る文書からその歴史的背景を理解していただければ幸いと存じます。

なお、文書館では本年4月より常設展示も開催しております。今回の展示と併せて御覧ください。

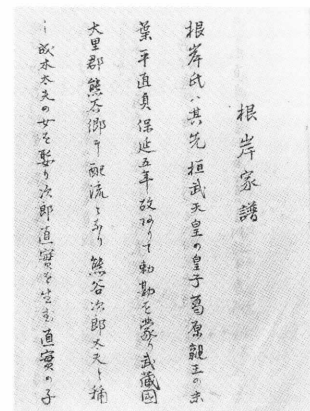
最後にこの収蔵文書展を開催するにあたり、貴重な史料を御提供頂きました所蔵者の根岸喜夫氏、及び御協力頂いた関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成10年10月

埼玉県立文書館長

□凡 例

- 1 本書は、埼玉県立文書館で平成10年10月24日から12月20日まで開催される平成10年度第1回収蔵文書展「大里地方の文書 友山と武香 ー青山根岸家文書の世界ー」の展示解説書である。
- 2 会期中に展示替えを行うため、本書に掲載されている資料でも期間により展示されていない場合がある。
- 3 本書掲載の番号は、巻末の展示資料一覧の番号と同じだが、実際の展示資料の番号とは一致しない。
- 4 本文中〔 〕が付いた資料名は、適切な表題および年代を後から与えたもので、それ以外は原題のと通りの資料名を使用した。
- 5 本書掲載の写真のうち、本館の収蔵資料以外のものについては、参考としてその旨を明記した。なお、協力者および協力機関については、巻末に芳名を記した。
- 6 本書の編集および執筆は、古文書課学芸員の新井浩文が担当した。



1 根岸家譜

□表紙写真

- 23 〔根岸友山肖像写真〕
- 32 根岸友山書状（浪士組動向二付）〔文久3年（1863）〕
〔根岸武香肖像写真〕（根岸家蔵）
- 43 E・S・モースからの感謝状 明治16年（1883）
吉見百穴写真（『埼玉県写真帖』大正11年刊より）

□裏表紙写真

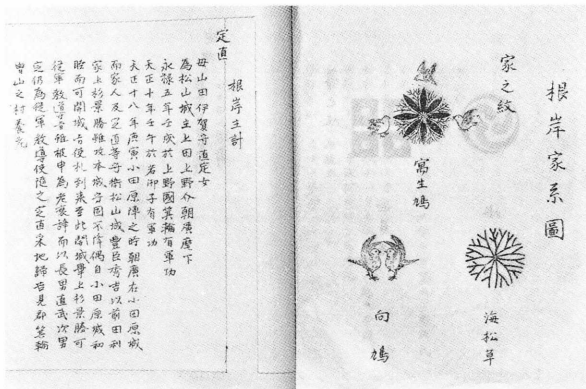
- 12 日記 万延元年（1860）より「根岸家玉作河岸商号印」

根岸家の歴史

根岸家は「家譜」及び「系図」によれば熊谷次郎直実の末裔で、根岸姓はその後、直栄の代に武蔵国比企郡根岸郷に住したことに拠るといふ。戦国期は、はじめ後北条氏に、後にその配下の松山城主上田氏に仕え、青山付近を領有した。青山（現大里郡大里村青山）は甲山とも書き、大里郡の東南端、荒川の支流和田吉野川の南方に位置し、古くは上吉見郷に属した。青山の村名は村内にある「冑のような小山」（青山古墳）に由来するといふ（「新編武蔵風土記稿」）。

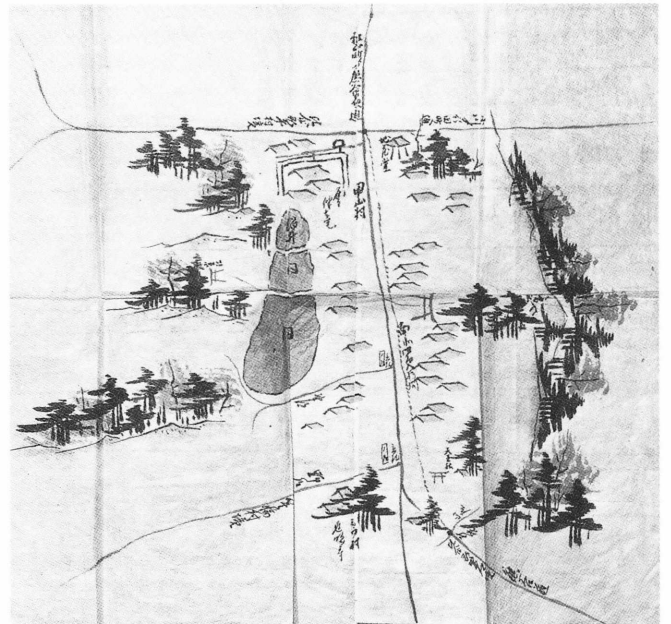


根岸家の長屋門（大里村指定）



2 根岸家系図

冒頭に根岸家の家紋と幕紋を付し、戦国末までの系図を載せる。根岸家の家紋は「海松草」と「鳩」でこれらは熊谷家紋の系譜を引いているといわれる。



5 甲山村溜井絵図（絵図下部が北）

絵図には、村内を南北に走る主要街道熊谷～松山道と村の中央に三つの溜池が描かれ、その上（南）側に塀で囲まれた根岸家（名主伴七）も描かれている。なお、溜池から街道を挟んだ右手（西側）に描かれた八幡社部分が県指定史跡青山古墳である。

根岸家略系図
（「根岸家系図」を中心に作成）

・ ・ ・ 熊谷直実－直景－直泰－直俊－直栄（根岸家初代・文保元年卒）－直政（称右近将監・元弘3年卒）－直助（称弾正忠・天授2年卒）－直勝（称越中守・応永2年卒）－直泰（称三郎右衛門・応永5年卒）－直道（称玄蕃助・応永23年卒）－直俊（称弾正忠・嘉吉元年卒）－盛忠（称越中守・永正10年卒）－直忠（称越中守・天文9年卒）－俊直（妻山田伊賀守直定女・属上田安独斎朝直・称佐渡守・元亀元年卒）－定直（称主計・天正19年卒）－直武（称帯刀・寛永4年卒）－信富（称喜兵衛・延宝4年卒）－宗信（称弥次兵衛・延宝3年卒）－武富（称喜太夫・享保17年卒）－有富（称伴七・延享4年卒）－保長（称喜太夫・安永9年卒）－宜信（称伴七・寛政12年卒）－富長（称伴七・寛政7年卒）－信保（称栄次郎・天保3年卒）－信武（称伴七・安政4年卒）－信輔（号友山・称伴七・文化6年〈1809〉生～明治23年〈1890〉卒）－武香（称伴七・天保10年〈1839〉生～明治35年〈1902〉卒）－盾臣（称伴七・昭和15年卒）－憲助（昭和5年卒）－喜夫（現当主）

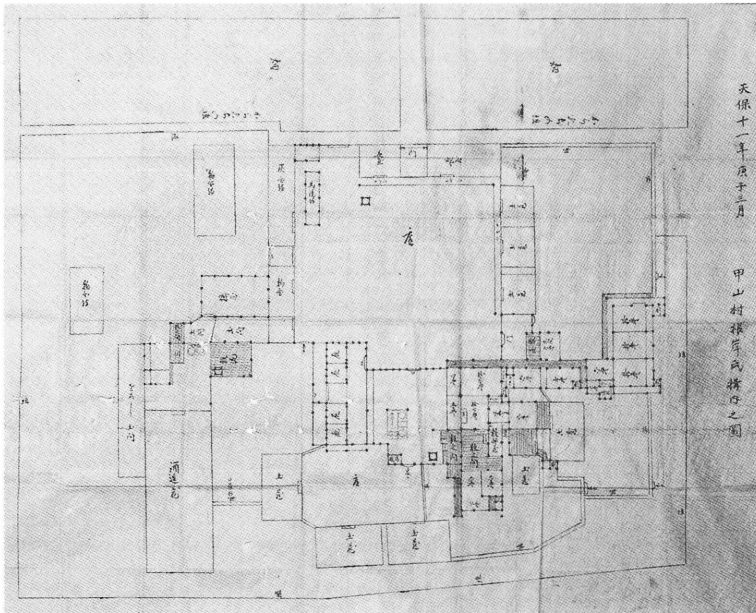
豪農根岸家

近世の冑山は、はじめ箕輪甲山村と称したが、元禄年間に箕輪村と甲山村に分村した。根岸家は、享保元年（1716）甲山村の名主となって以降、積極的な土地集積を行い、村内の6割以上を所有、さらに、宝暦4年（1754）以降に兼帯名主となった箕輪村をはじめ、他村でも土地集積を行った結果、総計80町歩以上を所有する周辺きっての豪農となった。

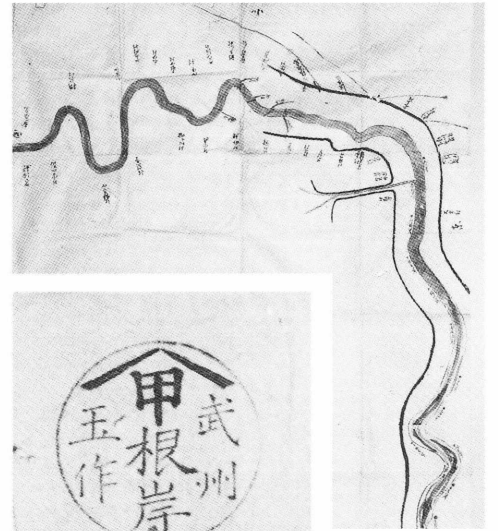
また、根岸家は隣村の玉作河岸問屋株を持ち、荒川舟運を通じて江戸からは塩や紙が、また江戸へは米・酒・木炭が運ばれるなど商業活動も盛んだった。



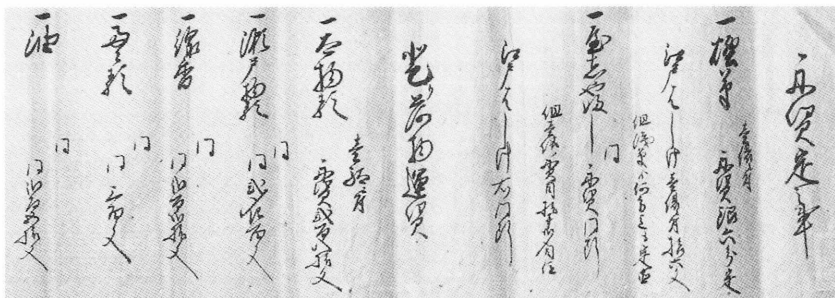
6 乍恐以書付奉願上候(箕輪村名主兼帯二付) 宝暦4年（1754）



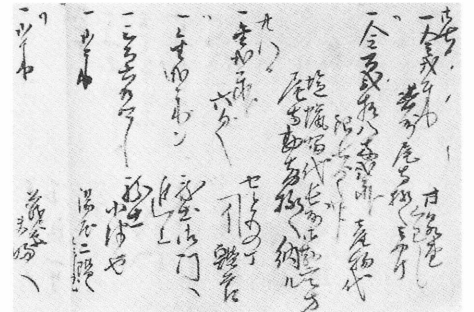
15 甲山村根岸氏構内之図 天保11年(1840)



14 [荒川通堰場河岸概観図] (玉作~寄居) (上)
12 日記より「玉作河岸商号印」(下)



11 舟賃定之事



13 備忘録 文久2年(1862)

玉作河岸と根岸家

安永8年（1779）甲山村名主根岸伴七（宜信）は隣村の玉作河岸の問屋株を彦右衛門から譲り受け、翌9年4月には新たに荒川上流通船計画（玉作～寄居間）を申請した。これは平賀源内の秩父鉄山開発後、その死去に伴い休止していた鉄積船の再開を見越したものだったが実現しなかった。しかし、下流の江戸との舟運は盛んで、幕末には長州藩から「御国塩其外産物之御用」と「御内用之筋」（緊急時の避難所約定）を命じられ、大量の塩や蠟燭が玉作河岸から水揚げされるとともに、様々な「人」と「情報」も根岸家にもたらされた。

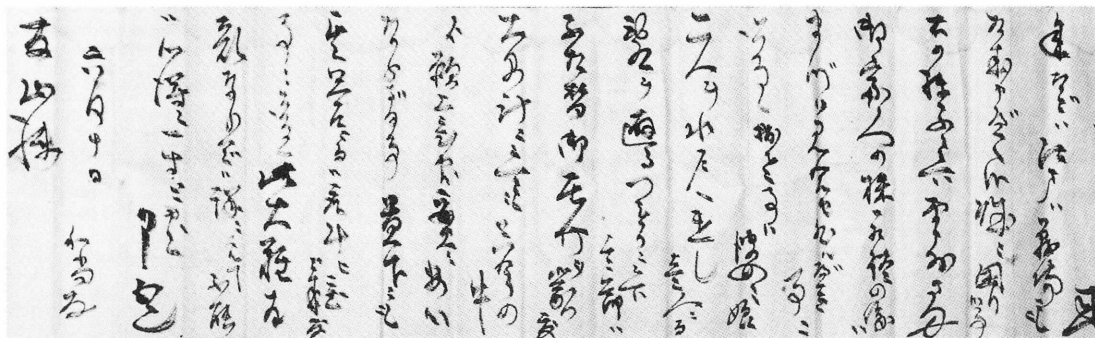
三余堂と振武所

三余堂は根岸友山が設立した私塾で、「三余」とは「年の余り、月の余り、日の余り」のことで、農閑を利用して村内近郷の子弟を教育する寺小屋と、来遊する学者から学ぶための学塾を兼ねたものであった。特に、友山と交流の深かった寺門静軒（1796～1868）は、しばしば冑山に來訪し、三余堂で易などの講義を行った。静軒は晩年を根岸家で過ごし、慶応4年（1868）73歳で同家にて没した。

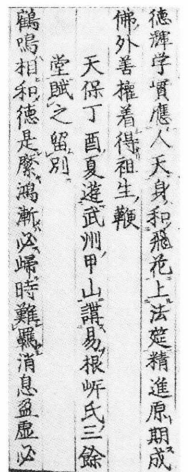
また、北辰一刀流の門人でもある友山・武香父子は後に近郷の子弟に剣術を教えるため振武所という道場を開設している。



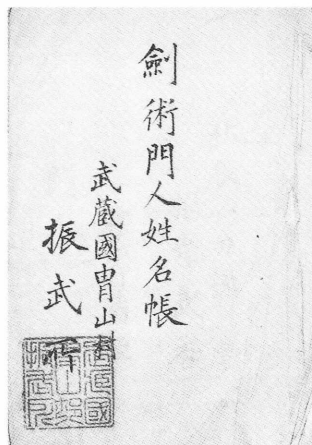
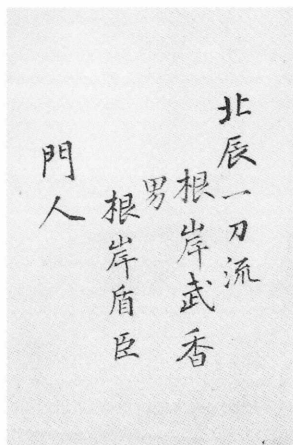
根岸家内三余堂跡（大里村指定）



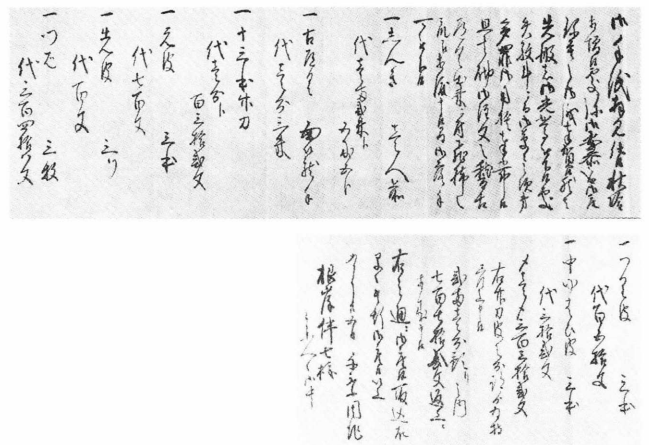
16 寺門静軒書状（異国船来航二付）



18 静軒詩鈔（部分） 天保9年（1838）刊
天保8年（1837）の静軒の根岸家來訪を伝える。



19 剣術門人姓名帳



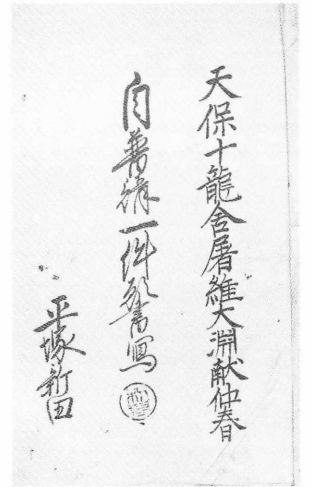
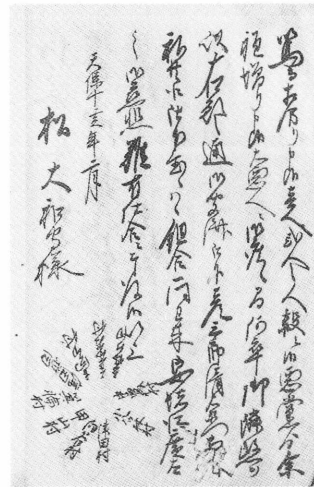
20 千葉周作書状（稽古道具納品二付）

根岸友山と千葉周作

根岸友山・武香父子は、北辰一刀流の流祖千葉周作（1794～1855）の門人であったことから、振武所には千葉道場から稽古の師範が派遣されたり、剣道具の提供を受けていた。やがて振武所で養成された門人たちが一種の農兵的な武力として幕末の友山の浪士（新徴）組拳兵計画に参画し、また、慶応2年（1866）に起こった武州一揆では、一揆勢を制圧する重要な武力となった。

友山と治水

荒川沿いにヨの字型の大囲堤で囲まれた大里郡・横見郡・比企郡は大洪水多発地帯で、特に荒川が彎曲する熊谷付近の荒川堤が治水の難所であった。この荒川堤改修工事をめぐっては請負人である川越領小泉村（現大里郡大里村小泉）名主彦三郎らに不正があるとして、天保10年（1839）2月12日に甲山村ほか9カ村の農民約5,000人が蜂起、川越城に強訴する事件（糞負騒動）が起きた。また、安政6年（1859）には熊谷宿地先の堤外地「百間出」をめぐって対岸の村々との間で訴訟も起こっており、荒川の治水は友山にとって生涯の課題であった。



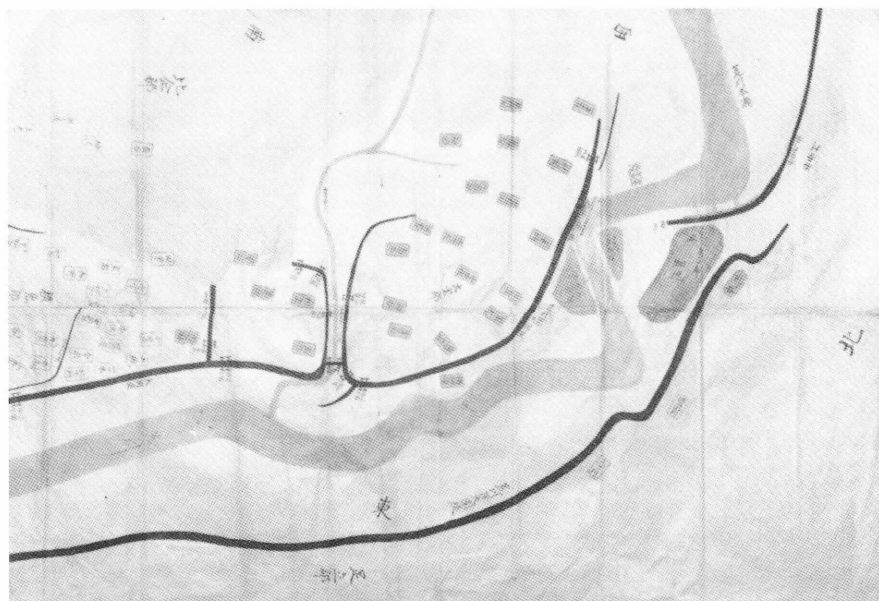
24 自普請一件願書写(糞負騒動) 天保10年(1839)

糞負騒動と友山

糞負騒動では参加した多くの農民が吟味され処罰の対象となった。友山は強訴に参加しなかったが彼らに荷担した罪を問われ、安政6年（1859）に赦免されるまで「江戸拾里四方追放」の重刑に処された。

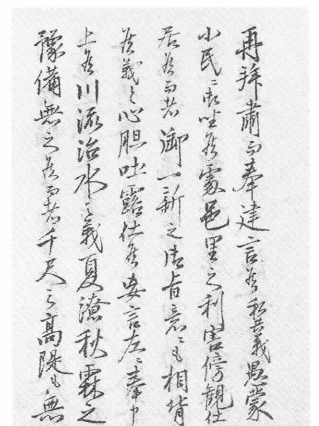


25 小泉村一件御裁許写 天保12年（1841）



27 〔荒川百間出堤位置図〕

「熊谷宿畑地」と記されている部分が百間出。ここから南流する荒川が大囲堤を直撃した。

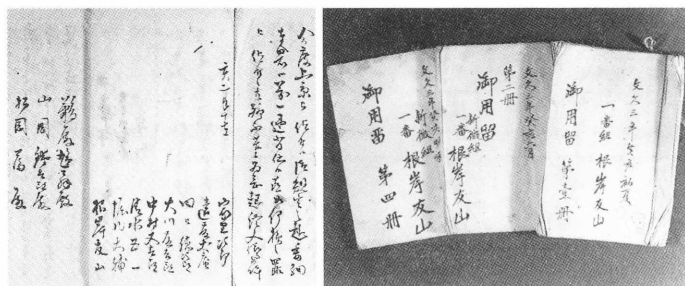


29 治水表草稿
〔明治2年(1869)〕

友山はこれまでの治水の苦悩から、明治新政府に対して建白書「治水表」を提出している。

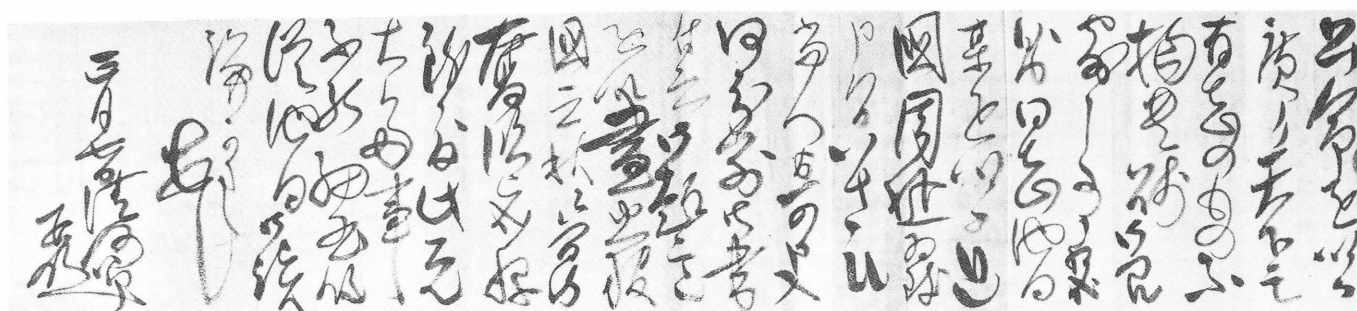
尊攘派志士友山と新徴組

根岸友山は、豪農としての資産とその多彩な人脈から諸藩の尊攘派志士との交際や支援を行っていたが、文久3年(1863)2月には、自らも清河八郎の呼び掛けによって組織された將軍上洛の護衛組織である浪士組に、一番組小頭として門人を率いて参加した。上洛後、幕府は清河が尊攘思想であることを知り、英国との緊張が高まってきた事を理由に浪士組を江戸の警備を名目として帰東させ、後に新徴組を発足させた。この帰東策に不満の一部浪士達(近藤勇ら)は京都に残り、市中警備を目的とする新選組となった。

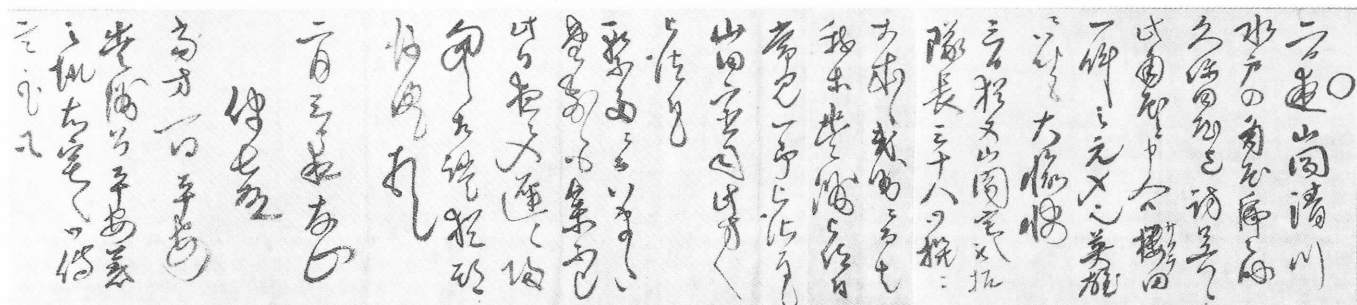


34 御用留 文久3年(1863)

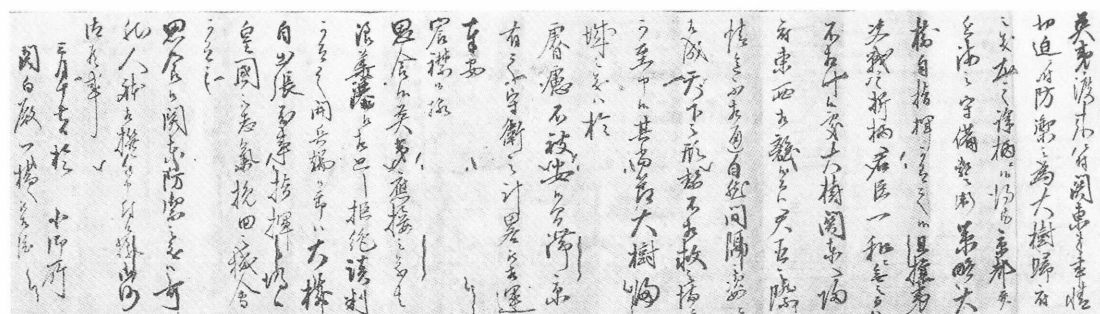
55歳の友山が浪士組及び新徴組一番組小頭として記録している御用留で、5冊現存している。内訳は浪士組時代が2冊、新徴組時代が3冊となっている。



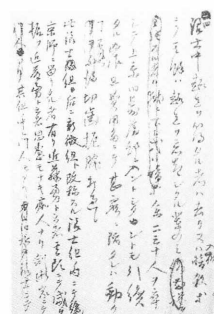
30 清河八郎書状(浪士中の有志幕府御召出二付)〔文久3年(1863)〕正月7日



32 根岸友山書状(浪士組動向二付)〔文久3年(1863)〕2月3日



33 関白鷹司輔照沙汰書写〔文久3年(1863)〕3月17日



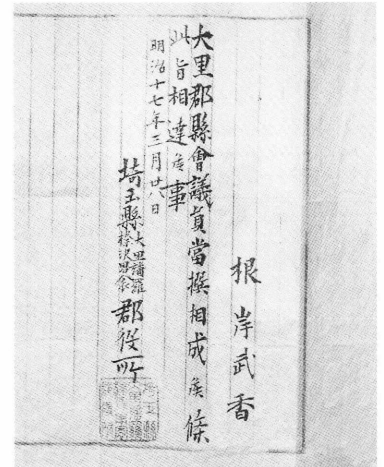
36 自伝草稿

文久3年(1863)3月17日に京都御所内小御所において関白鷹司輔照^{すけひろ}によって作成された一橋慶喜宛て沙汰書の写。内容は將軍家茂の帰府に反対し、関東の防禦は別の者に行わせるべき旨を述べており、新徴組発足の契機となった。なお、友山の帰東とその後の新徴組参加は「自伝草稿」にみるように近藤勇との思想的対立に拠るところが大きかった。

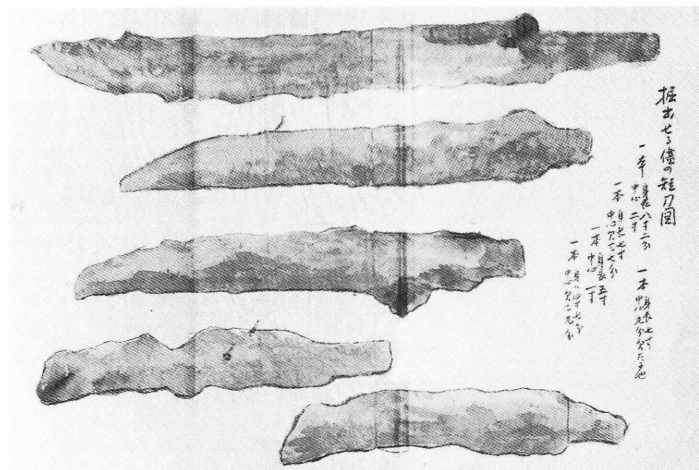
考古学者武香とモース

友山の2男根岸武香は、家督を継いだ後、明治元年（1868）には地方大惣代、明治3年（1870）弾正台巡察属に任ぜられたほか、明治6年（1873）には熊谷県学区取締として初期学制の確立に努力した。さらに、明治12年（1879）県会議員に初選出され副議長、翌年には第2代議長となったほか、明治27年（1894）には貴族院多額納税議員となった。

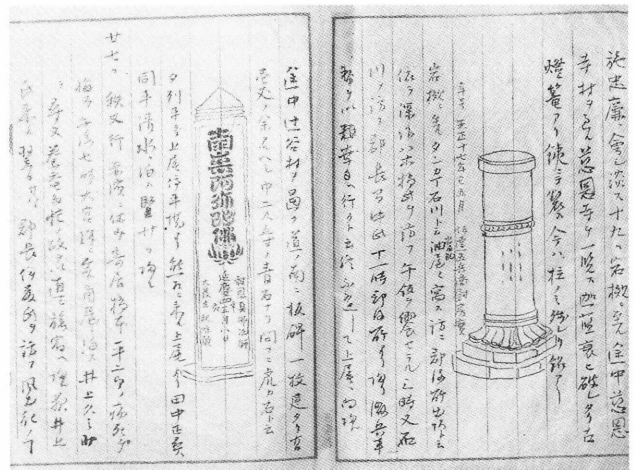
このような政治活動の傍ら、武香は考古学に傾注し、しばしば各地の史跡や発掘現場を訪れ、遺物の詳細な記録を遺している。また、武香の幅広い交流は大森貝塚の発見で著名なエドワード・シルベスター・モースやオーストリア＝ハンガリー帝国公使館通訳で『考古説略』の著者であるヘンリー・ホン・シーボルトら外国人にまでも及んだ。



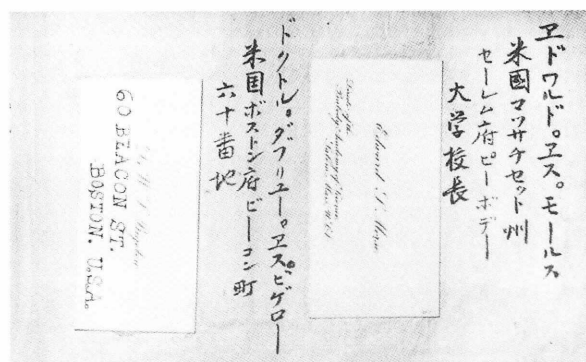
38 〔県会議員当選通知書〕
明治17年(1884)



41 野本村出土物を観る記 明治34年(1901)



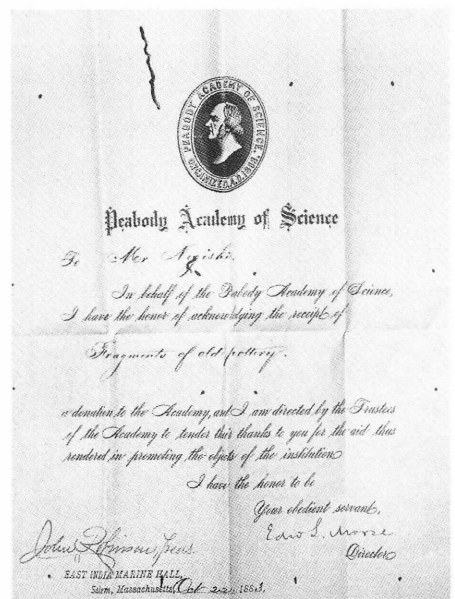
40 根岸武香日記 明治17~20年(1884~87)



42 人名録
(E・S・モース、
W・S・ピゲロー名刺)
明治15~18年(1882~85)

モースのみた青山

E・S・モース（1838~1925）は、明治12年（1879）と明治15年（1882）の2回、青山に武香を尋ねた。「人名録」にある名刺は2回目の訪問時のもので、この時の記録は著書『日本その日その日』に詳述されている。また、武香は自ら収集した土器片の一部をモースに寄贈、明治16年（1883）にはモースが館長を勤めるピーポディ科学アカデミーより感謝状が贈られた。なお、「人名録」にはヘンリー・ホン・シーボルト（1852~1908）の名刺も見える。



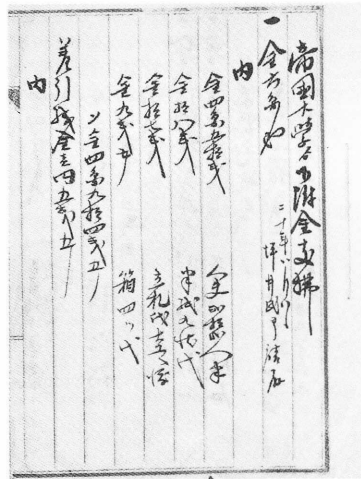
43 E・S・モースからの感謝状
明治16年(1883)

百穴の保存

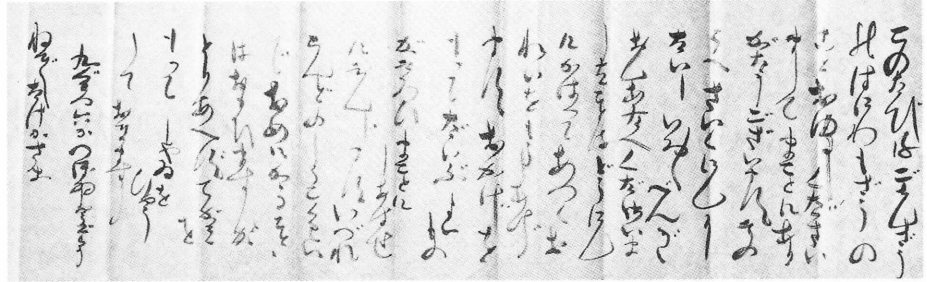
明治20年（1887）、武香は古墳時代後期の横穴墓群である国指定史跡「吉見百穴」の発掘と保存について奔走した。発掘は、当時東京帝国大学の大学院生だった人類学者の坪井正五郎を中心に行われ、この発掘を契機に百穴の評価をめぐる学会は「土蜘蛛人穴居説」と「墓穴説」の二つに分かれての大論争となった。武香は百穴に保存管理事務所を建設、管理人である大沢藤助がガイド役を果たし、百穴は日本における観光地として外国人にも広く紹介された。



50 意見上申書

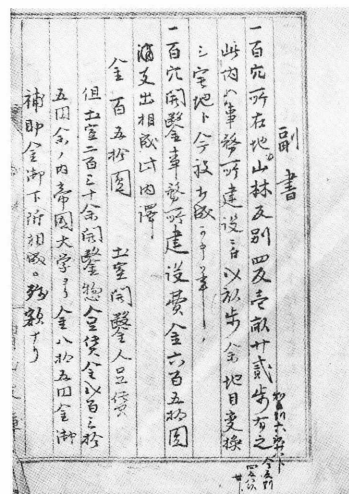


45 帝国大学より下附金支払
明治20年(1887)

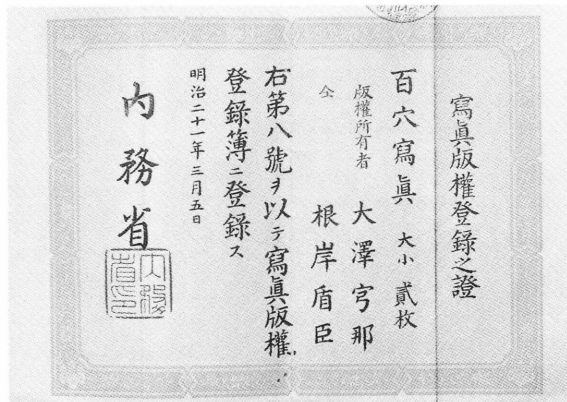


53 坪井正五郎書状(埴輪模造二付)〔明治23年(1890)〕

根岸武香と坪井正五郎（1863～1913）の出会い「人名録」の署名から明治18年（1885）に遡る。両者の交流は百穴発掘後も学会等を通して続いていたことが知られる。

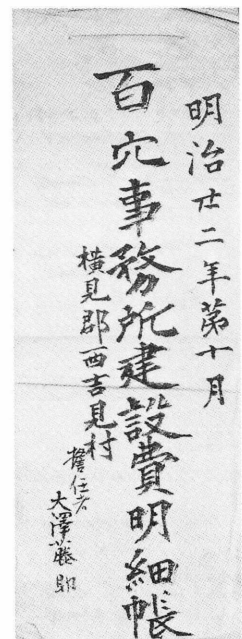


49 副書（百穴保存計画）



52 写真版權登録之証 明治21年(1888)

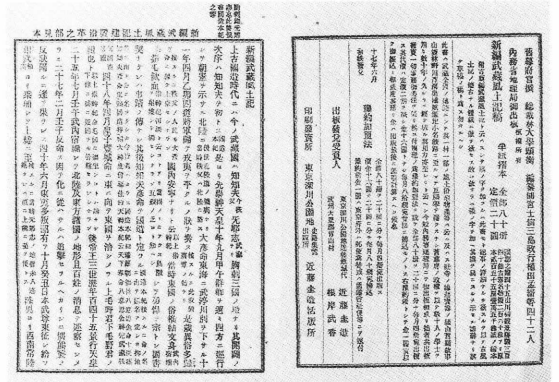
百穴の写真は内務省に版權登録され、大が定価50銭、小が定価20銭にて頒布されていた。根岸盾臣は、武香の子伴七の本名である。



47 百穴事務所建設費明細帳
明治22年(1889)

新編武蔵風土記稿の出版

武香は、明治17年（1884）6月、東京深川の近藤圭造とともに江戸幕府が編纂した地誌である「新編武蔵風土記稿」を内務省地理局から出版した。武香による出版事業は「同書」にとどまらず古代に使用された印鑑の集大成である「古印譜」や古代・中世文書にまで及んだ。また、武香は自らも資料の収集に務め、その一部が帝国博物館や東大史料編纂所へ貸出された。なお、武香が収集した蔵書の一部は国に寄贈され、「青山文庫」として国立国会図書館で公開されている。



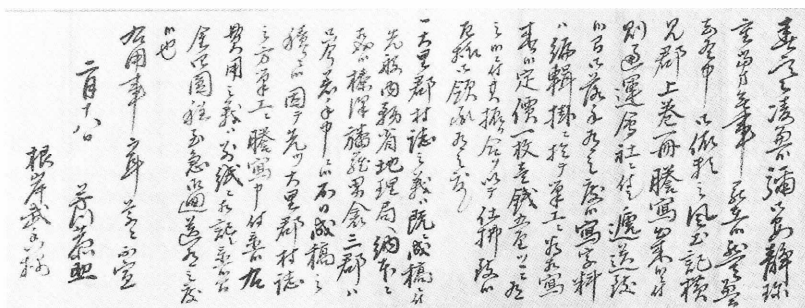
55 〔新編武蔵風土記稿出版広告〕



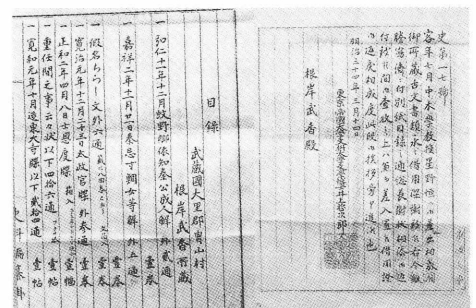
57 内務省地理局本



56 埼玉県旧蔵本写本（同挿図部分）

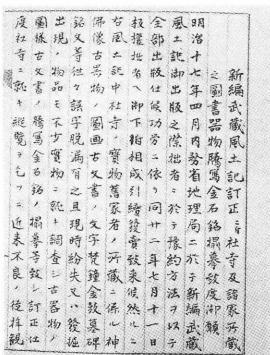


59 芳川恭助書状（風土記横見郡謄写出来候二付）
〔明治13年（1879）〕

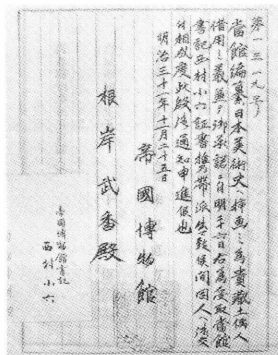


61 蔵書返却通知 明治34年（1901）

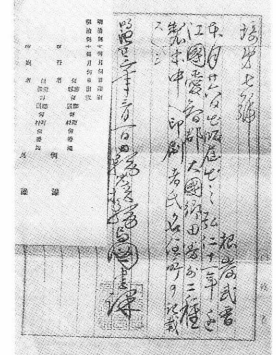
明治35年（1902）、武香は埼玉県と東京府両知事に対して「新編武蔵風土記稿」所載資料の再調査実施にあたって、身分証明書の発行願を提出している。



63 〔風土記訂正二付願書写〕



62 〔帝国博物館借用通知〕



60 〔古田券出版許可状〕

大里地方の文書展示資料一覧

番号	文 書 名	年代	文書番号	番号	文 書 名	年代	文書番号
根岸家の歴史				32	根岸友山書状（浪士組動向ニ付）	[文久3(1863)]	根岸5090
1	根岸家譜		林 7570	33	〔関白鷹司輔熙沙汰書写〕	[文久3(1863)]	〃 5325
2	根岸家系図		〃 7571	34	御用留	文久3 (1863)	〃 ⁸⁹⁻⁹¹ ₃₇₀₂₋₀₃
3	家系近代生没年表（根岸家）		〃 7538	35	文久三年癸亥二月浪士上京之節連名上書之写	文久3 (1863)	〃 389
4	青山村沿革		〃 7546	36	根岸友山自伝草稿 (根岸友山墓《県指定》・国会図書館青山文庫「吐血論」写真パネル)		林 7517
5	甲山村溜井絵図（パネル） (根岸家縁戚関係・根岸家譜表・青山付近航空写真パネル)		根岸3624	考古学者武香とモース			
豪農根岸家				37	〔根岸武香履歴書〕	明治17 (1884)	根岸3514
6	乍恐以書付奉願上候（箕輪村名主兼帯ニ付）	宝暦 4 (1754)	根岸2913	38	〔県会議員当選通知証〕	明治17 (1884)	〃 3494
7	乍恐以書付奉願上候（伴七奇特ニ付）	寛政12 (1800)	〃 2944	39	根岸武香覚書		林 7519
8	諸器手控帳	天保12 (1841)	〃 381	40	根岸武香日誌	明治17~20	〃 7536
9	譲請証文之事（玉作河岸問屋株譲渡）	安永 8 (1779)	林 7576	41	野本村出土物を観る記	明治34 (1901)	〃 7545
10	〔玉作河岸場譲渡承認ニ付用状〕	[安永8(1779)]	〃 7585	42	人名録（モース、ピゲロー名刺）	明治15~18	根岸1058
11	舟賃定之事		根岸2092	43	E・S・モースからの感謝状	明治16 (1883)	〃 5256
12	日記	万延元 (1860)	〃 383	44	〔シーボルト名刺<人名録>パネル〕 (「日本その日その日」・「日本のすまい」・黒岩横穴墓群《県指定》写真パネル)	明治16 (1883)	〃 1058
13	備忘録	文久 2 (1862)	〃 384	百穴の保存			
14	〔荒川通堰場河岸概観図〕（パネル）		〃 3600	45	帝国大学より下附金支払（百穴発掘）	明治20 (1887)	根岸1070
15	甲山村根岸氏構内之図（パネル） (根岸家長屋門《村指定》写真パネル)	天保11 (1840)	〃 3592	46	百穴保存書類	[明治21(1888)]	〃 1009
三余堂と振武所				47	百穴事務所建設費明細帳	明治22 (1889)	〃 1042
16	寺門静軒書状（異国船来航ニ付）		根岸5049	48	〔百穴整備諸入用明細〕	明治	〃 890
17	寺門静軒書状（大地震ニ付）	[安政2(1855)]	〃 5051	49	副書（百穴保存計画）	明治	〃 1537
18	静軒詩鈔	天保 9 (1838)	小室2382	50	意見上申書（百穴保存ニ付）	明治	〃 3532
19	剣術門人姓名帳		根岸 378	51	写真版權登録願	明治21 (1888)	〃 3517
20	千葉周作書状（稽古道具納品ニ付）		〃 5095-1	52	写真版權登録之証	明治21 (1888)	〃 3435
21	千葉周作書状（原田吉之助代稽古差出ニ付） (根岸家内三余堂跡《村指定》・寺門静軒墓《村指定》写真パネル)		〃 5095-2	53	坪井正五郎書状（埴輪模造ニ付）	[明治23(1890)]	〃 5096
友山と治水				54	坪井正五郎名刺《人名録》パネル	明治18 (1885)	〃 1058
22	〔根岸友山事曆取調書〕	明治23 (1890)	林 7550	新編武蔵風土記稿の出版			
23	根岸友山肖像写真		〃 7655	55	〔新編武蔵風土記稿出版広告〕	[明治17(1884)]	小室1259-4
24	自普請一件願書写（養負騒動一件）	天保10 (1839)	根岸1267	56	新編武蔵風土記稿（埼玉県旧蔵本写本）	[明治12~13]	〃 2914~17
25	小泉村一件御裁許写	天保12 (1841)	〃 1269	57	新編武蔵風土記稿（内務省地理局版18期配本）	明治17 (1884)	〃 2836~39
26	乍恐以書附御訴奉申上候（熊谷宿百間出堤築立ニ付）	安政 6 (1859)	〃 2960	58	根岸武香書状（風土記出版情況ニ付）	[明治17(1884)]	〃 1260-1
27	〔荒川百間出堤位置図〕		〃 3546	59	芳川恭助書状（風土記横見郡謄写出来候ニ付）	[明治13(1879)]	根岸6221-1
28	〔大圍堤百間出部分切所絵図〕		〃 3689	60	〔古田券出版許可状（内務省図書課）〕	明治23 (1890)	〃 6138-1
29	治水表草稿（建白書）	[明治2(1869)]	林 7656	61	東大史料編纂所蔵書返却通知	明治34 (1901)	〃 5060
尊攘派志士友山と新徴組				62	〔帝国博物館借用通知〕	明治31 (1898)	林 7543-2
30	清河八郎書状（浪士中の有志幕府御召出ニ付）	[文久3(1863)]	根岸5093	63	〔新編武蔵風土記訂正ニ付願書写〕	明治35 (1902)	〃 7543-6
31	小松辰三郎書状（生麦事件外ニ付）		〃 5074	64	〔根岸武香事蹟取調書〕 (埼玉県博所蔵、風土記稿挿図・古田券・古印譜各版木写真パネル)	明治36 (1903)	根岸1455

※期間中一部展示替えを行う予定です。

協力者・協力機関（敬称略）

根岸喜夫／林信行／小室開弘／兼子順／弓明義／埼玉県立博物館／吉見町教育委員会／大里村教育委員会

主な参考文献

- 秋葉一男 「近世末期における地方豪農の動向について」(『地方史研究』110号、1977)
- 井上勝生 「幕末の武州豪農と長州藩一民族的自立の基盤について一」(『日本歴史』第433号、1984)
- 小野文雄 「近世関東農村における豪農の成立と経営について一大里郡吉見村根岸家の資料を通して一」(『埼玉大学紀要(人文・社会科学篇)』第3巻別冊、1954)
- 加藤 浩 「甲山根岸家の荒川通船計画」『埼玉地方史』第22号、1987)
- 桜沢一昭 「武蔵草莽の一典型—武州青山・根岸友山論—」(『埼玉地方史』第5号、1978)
- 長島淳子 「天保期の村方騒動—武州大里郡荒川通自普請一件を中心に—」(『埼玉地方史』第7号、1979)
- 沼田 哲 「武蔵の豪農と尊攘思想—大里郡甲山村根岸友山の場合—」(『季刊日本思想史』第13号、1980)
- 同 「慶応二年の武州—揆と豪農—大里郡青山村根岸友山の場合—」(『歴史公論』第3巻第5号、1977)
- 森田 武 「武州における文久3年の草莽の活動と思想—覚書—」(『埼玉大学紀要 教育学部(人文・社会科学)』第41巻第1号、1992)
- E・S・モース 『日本その日その日』(全3巻) 平凡社東洋文庫、1971
- 同書編集委員会編 『ザ・ヤトイ—お雇い外国人の総合的研究—』 思文閣出版、1987
- B・H・チェンバレン、W・B・メーソン 『チェンバレンの明治旅行案内—横浜・東京編—』 新人物往来社、1988



収蔵文書展 大里地方の文書 友山と武香
— 青山根岸家文書の世界 —

発行 1998年10月

編集・発行 埼玉県立文書館
〒336-0011 浦和市高砂4-3-18

TEL 048-865-0112

FAX 048-839-0539

印刷 関東図書株式会社